



北海道ブロックのHIV医療体制の整備に関する研究

研究分担者 豊嶋 崇徳

北海道大学大学院 医学研究院・血液内科学教室 教授

研究要旨

北海道ブロック内の患者動向や各拠点病院の診療実績、活動状況を分析した。また、北海道ブロック内でのHIV診療に関する研修会の開催によって、北海道内のHIVの診療水準の向上を図った。北海道ブロック内の新規HIV感染者数は2年連続で低下傾向にあるが、AIDS発症率は依然として高く、保健所等での検査件数も低下してきていることから、見かけ上の低下の可能性がある。研修会に関しては、これまでおこなってきたブロック拠点病院での研修会や出張研修を継続し、本年度は北海道内の19施設での出張研修を行った。また歯科・透析・福祉サービスの各ネットワーク拡大に向けた取り組みを行った。出版物としては、「HIV感染症診断・治療・看護マニュアル 第11版」を刊行し北海道内のHIV感染症の診療水準の向上を図った。今後は、ケアカスケードの最初の90を達成するための対策が必要であると考えられた。また、拠点病院以外でのHIV患者の診療拒否が散見されており、今後の対策が必要と考えられた。次年度以降もHIV感染症の正しい知識の啓発および医療体制の整備を進めていく予定である。

A. 研究目的

北海道ブロックのHIV感染症の診療水準の向上およびHIV感染者の受け入れ施設の拡大を目的とした。

B. 研究方法

北海道ブロック内の拠点病院へアンケート調査を行い、患者動向、診療実績、活動状況を分析した。また、ブロック拠点病院に中核拠点病院を加えた体制でHIV診療に関する研修会を開催し、各職種における診療水準の向上を図った。なお、これらの調査及び研修会の一部は、北海道との共同で行った。さらに、ブロック拠点病院内における出前研修や院外へ出向く出張研修、刊行物等を通して北海道におけるHIV感染症の診療水準の向上を図った。出張研修では、研修前後にHIV診療に関するアンケート調査を行い、研修の効果を評価した。また、行政とも連携して、受け入れ施設拡大を目的とした各診療ネットワーク（歯科・透析・福祉サービス）の充実を図った。さらに、血友病合併HIV感染患者の関節症の

現状把握および院内外のリハビリ科との連携を強化する目的で、血友病運動器検診会を開催した。

（倫理面への配慮）

アンケート調査や研修会でのデータ解析、症例呈示においては、患者個人が特定されない等の配慮を行った。

C. 研究結果

1. 北海道ブロックの患者動向

平成29年12月末現在の北海道ブロックにおける新規のHIV/AIDS患者数を図1に示した。新規のHIV感染者は19名、AIDS発症者は15名、計34名であった。

2. 北海道ブロック拠点病院および北海道大学病院の診療実績と活動状況

北海道の各拠点病院のHIV/AIDS患者の診療状況を表1に示した。現在患者がいない施設が4施設あったが、これまでHIV/AIDS患者の診療経験が全く

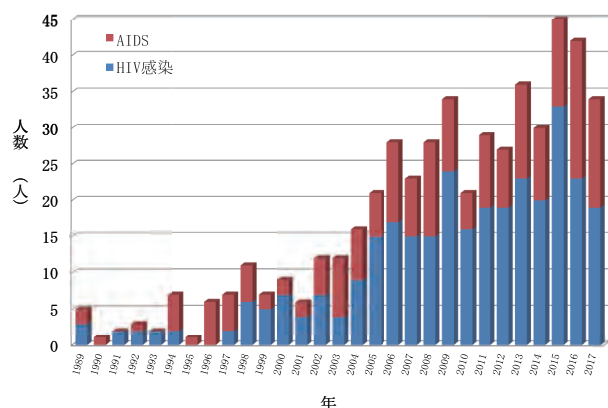


図1 北海道におけるHIV・AIDSの新規患者数

表1 北海道ブロックの拠点病院別患者数

	17/16/15 (年度)	累計	現在数		17/16/15 (年度)	累計	現在数
北海道大学病院	7/22/40	420	279	【道北・オホーツク地区】			
				旭川医大病院	4/5/2	32	21
				旭川医療センター	0/0/0	3	0
				市立旭川病院	1/0/0	12	8
				旭川赤十字病院	0/0/1	2	0
				旭川厚生病院	0/0/1	3	1
【道央・道南地区】				北見赤十字病院	0/2/0	14	5
札幌医大病院	7/7/10	104	70	広域紋別病院	0/0/2	3	3
市立札幌病院	6/4/4	35	25				
北海道がんセンター	0/0/0	4	2	【道東地区】			
北海道医療センター	0/0/0	6	0	釧路労災病院	0/2/6	37	26
市立小樽病院	0/0/0	5	2	市立釧路病院	0/0/0	4	3
市立函館病院	1/3/1	29	16	釧路赤十字病院	1/0/1	4	3
道立江差病院	0/0/0	0	0	帯広厚生病院	2/7/1	39	26

2017年9月末現在

ない施設は1施設のみであった。地域別患者数は、これまで同様、道央圏が多く、道内全体の56.9%の患者が北海道大学病院に通院していた。

北海道大学病院の活動状況としては、後述する北海道ブロックの研修会を主催または各地域の研修会の支援を行った。また、本年度は「HIV感染症診断・治療・看護マニュアル」改訂第11版を刊行し、北海道内拠点病院をはじめ、全国の関係機関に配布した。

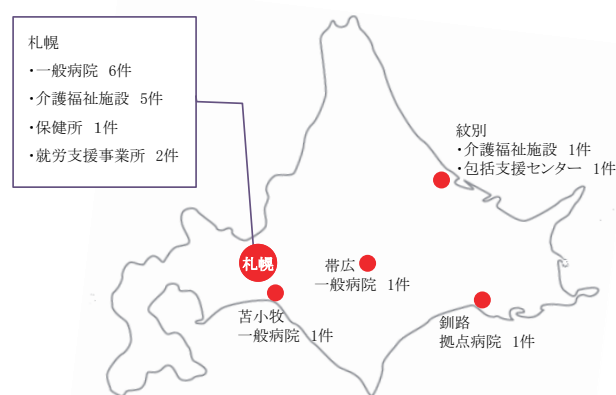


図2 平成29年度 北海道大学病院 出張研修

3. 北海道ブロック内の研修会等の開催状況

【北海道ブロック内研修会の開催】

- 平成29年度北海道HIV/AIDS医療者研修会、札幌、2017年6月10日
- 道東地区研修会、釧路、2017年6月3日
- 道央地区研修会、札幌、2017年10月23日
- 道北・オホーツク地区研修会、旭川、2017年9月9日
- 北海道エイズ治療拠点病院看護師研修会、札幌、2017年9月9日
- 北海道エイズブロック拠点病院HIV/AIDS看護師研修 応用レベル研修、札幌、2017年9月8日～9日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（カウンセラー）、札幌、2017年9月2日
- 北海道HIV/AIDS医療者研修会専門職研修（MSW）、札幌、2017年9月30日
- 北海道HIV/AIDS歯科医療研修会 小樽、2017年8月26日
- 札幌、2018年2月24日

【北海道大学病院内研修会】

- 北海道大学病院HIV学習会
第21回：2017年5月24日
第22回：2017年9月12日
- 院内出前研修
内科II、12-2病棟、リハビリテーション科

【北海道大学病院 出張研修（図2）】

- 札幌市内：14施設
- 札幌市外：5施設

【北海道HIVネットワーク参加状況】

- 北海道HIV歯科ネットワーク：45施設
- 北海道HIV透析ネットワーク：43施設（図3）
- 北海道HIV福祉サービスネットワーク：637施設（図4）

登録施設 43施設（平成30年2月現在）



図3 北海道HIV透析ネットワーク

サービス種別	件数
高齢者領域	
訪問系サービス	177件
通所系サービス	59件
短期入所サービス	15件
小規模多機能型居宅介護サービス・複合型サービス	13件
福祉用具貸与（レンタル）、福祉用具購入、住宅改修	3件
入所・居住系サービス	62件
サービス利用支援（居宅介護支援、介護予防支援）	101件
障がい者領域	
訪問系サービス	28件
日中活動系サービス	44件
入所・居住系サービス	11件
保険外サービス、独自事業、その他	
保険外サービス・独自事業	110件
その他	14件

図4 北海道HIV福祉サービスネットワーク登録施設

4. HIVネットワーク拡大のための取り組み

本年度は、北海道HIV透析ネットワークの拡大を目的として、行政に依頼して透析ネットワークへの登録要請の文書を北海道内の透析施設に配布した。登録施設数の推移を図5に示す。これまで、透析学会でのセミナーやフライヤーの配布などでHIV透析ネットワークへの参加を呼びかけていたが、登録施設数の増加にもっとも影響をおよぼしていたのは、行政からの登録要請であった。

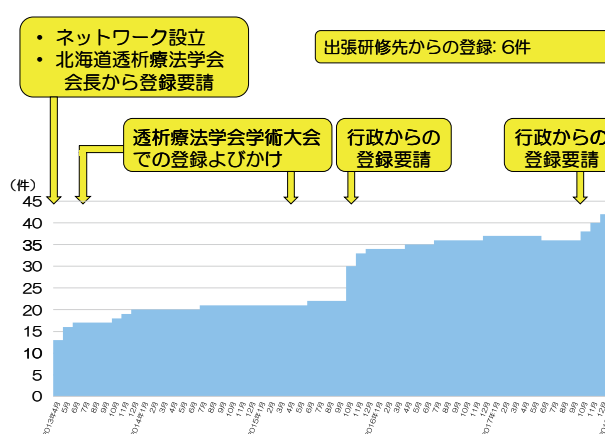


図5 北海道HIV透析ネットワーク登録施設数の推移

5. 血友病運動器検診会の開催

2017年11月4日に血友病合併HIV感染患者を対象として血友病運動器検診会を開催した。この検診会は、「非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究」班の研究の一環として行っているものであり、当院のスタッフ15名の他、国立国際医療研究センターからの4名、札幌徳洲会病院からの4名、その他5名のスタッフが協働して開催した。参加人数は患者および患者家族を含め17人であった。

D. 考察

北海道ブロックの新規患者数は、過去最多であった平成27年の45名からやや減少傾向にあり、平成29年（2017年）は34名であった。しかしながら、AIDS発症者の占める割合は44.1%と依然として高かった。また、平成20年に4747件とピークだった保健所等におけるHIV抗体検査件数は年々低下し、平成29年の速報値では2436件と、ピーク時の約半分の件数となっている。これらの結果から、新規患者数の減少は必ずしも真の患者数減少を意味していない可能性があると考えられた。少なくとも、北海

道では90-90-90のケアカスケードの最初の90の達成はまだ得られていないと考えられる。

北海道内の拠点病院での診療体制は徐々に整ってきたと思われるが、本年度は一般医療機関において診療拒否と思われる事例が目立った。HIV感染症の治療に関しては、ほとんどの症例で良好なコントロールが得られているため、いわゆる「風邪」などの一般的な合併症やワクチン接種などは、拠点病院以外の医療機関に依頼することが多いが、HIVを理由に診療を断られることが依然として多いのが現状である。図6に示すとおり、出張研修を行った施設でのアンケート調査では、研修前には患者受け入れに対して否定的な回答が多かったが、研修後には、肯定的な回答が大幅に増えており、実際に、出張研修後にHIV患者の受け入れやHIV診療ネットワーク登録に至った施設が増えてきている。このことから、本研修が患者の受け入れに対する意識の改革に大きな役割を果たしていると考えられたが、一般診療施設すべてに研修を行うことは不可能であり、診

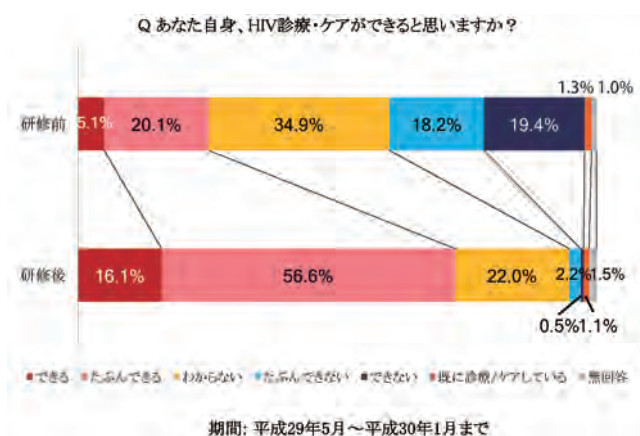


図6 出張研修前後のアンケート調査

療拒否に対する対策に関しては、行政と連携するなど、別のアプローチが必要と考えられた。実際、透析ネットワークの登録要請を行政から通知したところ、図5に示すように2回の通知後にいずれも登録施設数が大幅に増加していたことから、HIV診療施設の拡大において行政との連携がきわめて効果的と考えられた。

本年度開催した運動器検診会では、院内のリハビリ科との連携のみならず、血友病センターを有する札幌徳洲会病院との連携が強固となったと考えられる。また、道内全域から患者およびその家族が参加しており、本検診会の需要は高いものと考えられた。本年度は勉強会および自宅でできる簡単なリハビリの指導がメインだったが、次年度は実際の機能測定を含めた運動器検診をメインに行う予定である。

E. 結論

北海道ブロックにおけるHIV診療水準向上のため、出張研修を含む研修会や診療ネットワークを通じて、一定の成果が得られたと考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 原著論文

- 1) Endo T, Goto H, Miyashita N, Ara T, Kasahara K, Okada K, Shiratori S, Sugita J, Onozawa M, Hashimoto D, Nakagawa M, Kahata K, Fujimoto K, Kondo T, Hashino S, Houkin K, Teshima T: HIV infection increases risk of cerebral microbleeds in hemophilia patients. J AIDS Clin Res 8: 747, 2017

- 2) 富田健一、白坂るみ、遠藤知之、渡部恵子、武内阿味、坂本玲子、センチノ田村恵子、石田陽子、豊嶋崇徳: 北海道HIV福祉サービスネットワークの構築、日本エイズ学会誌 19: 180-184, 2017

2. 学会発表

- 1) Endo T, Miyashita N, Kasahara K, Ara T, Okada K, Shiratori S, Goto H, Sugita J, Onozawa M, Hashimoto D, Kahata K, Fujimoto K, Kondo T, Hashino S, Teshima T: The Prevalence of cerebral microbleeds in HIV-infected hemophilia patients. 9th IAS Conference on HIV Science, Paris, France, July 123-26, 2017
- 2) 遠藤知之、センチノ田村恵子、渡部恵子、宮下直洋、荒隆英、後藤秀樹、橋野聡、豊嶋崇徳: 北海道HIV透析ネットワークの構築とその有効性の検討 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日-26日
- 3) 渡部恵子、センチノ田村恵子、遠藤知之、富田健一、石田陽子、藤田和華子、後藤秀樹、宮下直洋、大野稔子、豊嶋崇徳、本田秀子: 北海道ブロック「HIV/AIDS出張研修」5年間の実践報告 第31回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2017年11月24日-26日

3. 刊行物

- 1) 「HIV感染症診断・治療・看護マニュアル 改訂第11版」(平成30年1月刊行) 編集: 北海道大学病院HIV診療支援センター

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし